

第1回成長戦略会議ワーキンググループ 富山県

「真の幸せ」（ウェルビーイング）中心の成長戦略

- ◆ 「真の幸せ」（ウェルビーイング）の向上
- ◆ 次世代の価値を産む人材の集積

成長戦略の中核となる6つの柱に基づき、具体的な施策を検討するため、ワーキンググループを設置

- ① 真の幸せ（ウェルビーイング）戦略
- ② まちづくり戦略
- ③ ブランディング戦略
- ④ 新産業戦略
- ⑤ スタートアップ支援戦略
- ⑥ 県庁オープン化戦略

第1回成長戦略会議ワーキンググループ 富山県

○「中間とりまとめ」に示した施策の方向性を踏まえて、
現状と課題を説明、具体的な施策案について意見交換

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------|
| ① 真の幸せ（ウェルビーイング）戦略WG | 11月1日 |
| ② まちづくり戦略WG | 11月12日 |
| ③ ブランディング戦略WG | 11月12日 |
| ④ 新産業戦略WG | 11月4日 |
| ⑤ スタートアップ支援戦略WG
（とやまスタートアップ戦略会議） | 10月18日
（第2回11月17日） |
| ⑥ 県庁オープン化戦略WG | 11月11日 |

真の幸せ(ウェルビーイング)戦略WG①

<中間とりまとめを踏まえた課題>

- ① 県民のウェルビーイングの向上、多様性の促進
- ② 女性のウェルビーイングの向上、
働き方改革・ワークライフバランスの推進
- ③ 人材交流・人材集積の促進

真の幸せ(ウェルビーイング)戦略WG②

<委員からの主なご意見>

- 先進的に取組むのであるからこそ、全国の基準となるようなウェルビーイングの指標を示したらどうか
- 女性の流出の原因を突き止めていきたい
- 多感な時期に田舎に暮らすことは重要、山村留学が後々の富山ファンを増やすのではないか。
- 男性の意識改革のみならず、女性のウェルビーイングには、女性の意識改革も重要
- 男性と比べてキャリアが中断しやすい女性については、特に多様性を踏まえた施策が必要

まちづくり戦略WG①

<中間とりまとめを踏まえた課題>

- ①居心地がよく個性的な市街地・田園地域づくり
- ②官民連携によるまちづくりや社会課題解決の推進

まちづくり戦略WG②

< 委員からの主なご意見 >

- 事業者同士がヨコでつながり、新しいものに取り組める仕組みをつくれないか
- 特色のあるまちづくりに向けて、若者や社会的弱者の声をしっかりと聴くことが重要
- 自然など、もともとの風景を生かした文化をまちづくりに取り入れてくべきではないか
- 行政は率先して前に出るのではなく、住民や民間がやりやすいフィールドをつくることが大切

ブランディング戦略WG①

＜中間とりまとめを踏まえた課題＞

- ①国内外に対し、富山＝ウェルビーイング（真の幸せ）のイメージをどう作り上げるか
- ②富山の「関係人口1000万人」を実現するために何が必要か

ブランディング戦略WG②

<委員からの主なご意見>

- SNSを活用して、県民自身が県の魅力を発信することが効果的
- サイクリングロードや海岸など身近な日常に魅力が必要
- 様々な人の富山とのつながりを今一度見直してはどうか
- サーロインの法則（3：6：1＝作って：届けて：計測する）で考え
スモールマスへの適切な発信が必要
- 転勤族とその家族は地域最大の関係人口
- コロナ後に回復する欧米インバウンドに対しては、リアルで針でポイントを刺すプロモーションを

新産業戦略WG①

<中間とりまとめを踏まえた課題>

- ①循環型経済圏の確立
- ②広域交通インフラの整備、経済交流
- ③県内企業のDX・高付加価値化支援
- ④カーボンニュートラルを踏まえた産学官連携の強化
- ⑤アルミ・くすり、リサイクル等の産業競争力強化
- ⑥実証実験の誘致・実施
- ⑦人材育成、公教育の強化

新産業戦略WG②

<委員からの主なご意見>

- 分野ごとに重点的に取り組む柱を決めて進めることが重要ではないか
- 住民全体でカーボンニュートラルを考えるモデル地区をつくれぬか
- アルミを使って新しい価値や社会を作っていないか
- 今後、世界的に中小企業がESG/SDGsコンプライアンスを求められるので、富山県の中小企業が先頭に立てないか
- リカレント教育、リスキリングの仕掛けやシステムを構築できないか

スタートアップ戦略WG① (とやまスタートアップ戦略会議)

＜中間とりまとめを踏まえた課題＞

- ①案件（シード）の発掘
- ②スタートアップ起業家への支援
- ③ネットワークの構築

スタートアップ戦略WG②

（とやまスタートアップ戦略会議）

＜委員からの主なご意見＞

- 例えば、IPOを目指す企業〇社など、目標を明確にすればどうか
- 研究開発ベンチャーでも経営の視点が大事。研究者×商売人のかけあわせをうまくやる必要がある
- 今後成長が見込まれる企業をピックアップし、その多彩な支援者もHP等で公表して、チアアップするのはどうか
- 面白い人にシャワーのように触れる機会をつくることが大事
- 大学、自治体、銀行、経済団体等が連携し、エコシステムの連携項目を考えていくことが必要

県庁オープン化戦略WG①

<中間とりまとめを踏まえた課題>

- ①県庁組織の活性化
- ②県庁の働き方改革の推進
- ③デジタル技術を活用した住民サービスの向上、
住民参加の推進

県庁オープン化戦略WG②

<委員からの主なご意見>

- 生産性をあげるために、「便利なツール」を使うなど、簡単なところから始めるとよい
- 短期的な成果だけではなく、次につながる仕事、スモールスタートも評価すべき
- 知事の考えをしっかりと下におろし、自分たちで話し合ってビジョンやミッション決めていくというプロセスが大事
- 県庁の広報広聴は、手軽さと期待感を目指すべき
- 行政サービスは県民が探すのではなく、行政側から分かりやすく県民に届けるべき（ポスト申請主義）